

愛知県保険医協会

学生会員ニュース No.66

発行：愛知県保険医協会

住所：〒466-8655 名古屋市昭和区妙見町 19-2

TEL：052-832-1345 FAX：052-834-3512

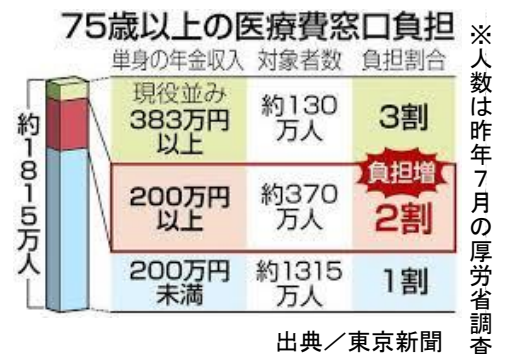
ホームページ <https://aichi-hkn.jp/> e-mail aichi-hkn@doc-net.or.jp

【学生会員のみなさんへ】

寒い日が続きますね。インフルエンザの流行は例年より少ない一方、新型コロナウイルス感染が広がり不安な毎日です。国試を控えた方は特に体調に気を付けて目標に向かってがんばってください。

75 歳以上の医療費窓口負担 2 倍に

75 歳以上の窓口負担を 2 割へ引き上げるための法案が今国会に提出される見込みです。75 歳以上の窓口負担は現在 1 割（3 割負担の現役並み所得者を除く）ですが、法案が通れば 370 万人（75 歳以上で年収 200 万円以上、75 歳以上の 23%）の窓口負担が 2 倍となります。高齢者は収入が低い上に慢性疾患を抱え受診頻度が高くなります。複数の医療機関にかかることも多く、1 割負担でも年収に対する窓口負担額の割合は現役世代（30～50 歳代）に比べ 2～6 倍となっています。



政府の進める負担増に対して、協会が取り組むクイズはがきには患者さんから「年金受取額は年々減っているのに、医療費、介護費、その他いろいろな支払いがアップ」「安心して生活できない」「受診が抑制され、病状が悪化し、逆に医療費が上がるのではないか」との意見が寄せられています。新型コロナウイルス感染拡大によって国民が心身とも疲弊する中で、医療費負担を重くし医療から足が遠のくことがあれば、患者の命と健康を脅かしかねません。保険医協会は窓口負担増の撤回を求めています。

窓口負担（自助）、保険料（共助）より、
国庫負担（公助）引き上げを

国は、高齢者の負担を上げる目的として、現役世代の保険料負担を抑えることを強調しています。75 歳以上の後期高齢者医療制度の財源は公費（5 割）、現役世代の保険料（4 割）、高齢者負担（1 割）となっています。今回の高齢者の窓口負担増で生じる財源は約 740 億円（2022 年度）で、現役世代の保険料に換算すると、1 人当たり年額約 700 円と負担軽減効果は限定的です。国は窓口負担（自助）と保険料（共助）を天秤にかけていますが、世代間対立を煽り、負担を肩代わりさせる方向では、社会保障の後退を避けられません。現役世代の負担軽減を強調するなら、財政基盤の弱い後期高齢者医療制度への国庫負担（公助）を引き上げることが先決です。コロナ禍でも過去最高の内部留保を積み上げる大企業に應分の負担を求めるなど、能力に応じた負担を原則とし、必要なサービスを保障していくことが必要ではないでしょうか。



国試の追試を要望

愛知県保険医協会は、昨年 12 月 21 日付でコロナに感染した受験者対象に医師・歯科医師国家試験の追加試験を実施するよう厚生労働省に要望しました。コロナの市中感染が広がり、感染予防に留意しても感染のリスクがあります。医師・歯科医師としての就業が一年遅れば本人にとっても社会にとっても大きな損失です。柔軟な対応を求めています。